

土地利用の推進（玉沢地区・大場地区）

アナ： 『市長が語る2023三島』第18回の今日は、「玉沢地区と大場地区の土地利用の推進」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願ひします。

市長： よろしくお願ひします。

アナ： 現在、三島市では産業振興のための土地利用に力を入れているようですが、それにはどのような狙いがあるのでしょうか。

市長： 全国的な傾向と同様に、三島市でも人口減少と少子高齢化が進んでおります。こうした中、活力ある三島市を維持し、持続的な発展につなげていくためには、魅力ある働く場を確保することが大変重要となってまいります。

中心市街地では、三島駅南口の再開発事業を推進していますが、あわせて、東駿河湾環状道路沿線の拠点整備にも力を入れているところです。

アナ： 働く場が増えれば税収の確保にも繋がりますから、三島市が発展していくために企業を誘致することは本当に重要ですね。

市長： はい。社会経済活動がコロナ禍から回復しつつあるなか、国際情勢上のリスクを考慮し、生産拠点を国内に回帰させる傾向もみられますことから、今後も引き続き、アクセスの良い静岡県東部への企業の進出意欲は高い状態が続くものと予想しております。

一方、市内には、こうした需要にお応えできる大規模な産業用地が不足しておりますので、国土利用計画や都市計画マスタープランへの位置付けを行うことで、拠点となる土地の有効利用を図り、新たな雇用創出や地域経済の活性化につなげたいと考えています。

アナ： なるほど。

具体的には、市内のどのあたりの土地を活用していこうとお考えでしょうか。

市長： まず玉沢地区ですが、東駿河湾環状道路の玉沢インターチェンジ周辺の、静岡県総合健康センターと三島総合病院に隣接する事業用地の売却手続きを進めており、今年度中には進出企業が決定する予定です。

三島市は、静岡県が進める「ふじのくに先端医療総合特区」の対象区域となっており、医療・健康関連産業の集積を推進しています。

県の総合健康センターには、この4月から「ふじのくに感染症管理センター」が開設され、現在改修工事が行われています。

その隣接地に医療・健康関連企業の誘致を目指すことで、静岡県のファルマバレープロジェクトの一大拠点として相乗効果を生み出せればと期待しています。

アナ： このエリアとの親和性の高い企業の進出が決まるといいですね。

他の地区でも、大きなプロジェクトがあると伺いましたが。

市長： はい。現在大場地区において、新たなまちづくりの検討が始まっています。

県立三島南高校の南側のエリアが候補地ですが、ここは、東駿河湾環状道路の大場・函南インターチェンジや伊豆箱根鉄道 大場駅へのアクセスが良好な場所です。

この4月には、地元地権者による「三島市大場地区土地区画整理準備組合」が設立され、開発に向けた検討や協議も進められておりますほか、三島市におきましても、「戦略プロジェクト推進室」を新設し、積極的に支援する体制を強化いたしました。

今後、地権者の合意形成はもちろんのこと、どのような企業を誘致するかなど開発の方向性を検討するとともに、本来は開発を抑制する市街化調整区域であり、大部分が農地であるこのエリアの開発に当たって法的規制をどうクリアするかなど、関係機関と協議を進めるなかで、新たな産業や交流の拠点の創出を図っていきたいと考えています。

アナ： 夢のある一大プロジェクトですね。

三島市が元気なまちであり続けるには、雇用の場を確保する企業誘致が重要で、そのためには、用地の確保が大きな「カギ」であることが分かりました。

豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。